

World Navi

ワールドナビ Vol. 36
2021 AUTUMN

Navi
対談

新型コロナ禍で露呈した戦後日本政治の弱点
抜本的な改革が急務になっている

産経新聞社 論説副委員長

公益社団法人 国際経済交流協会 会長

榊原 智 × 米田 建三

特集 特別寄稿 自民党の裏舞台を知り尽くす元官僚の激白

自民党の七不思議 —— 初心を忘れた政党は、どこに行くのか

議員立法支援センター代表 宮崎 貞行

社団レポート 一般社団法人 全国コインランドリー連合会 立ち上げ

Information 外国人技能実習生情報

寸鉄

アフガニスタンのタリバン復活に見る米国依存安保体制の危険 米田 建三

疾風

アフガン撤収を対中抑止の強化へつなげよ 産経新聞社論説副委員長 榊原 智

好評配信中

政治・経済・文化・社会の動向を解明するコンテンツ

YouTube 日本再興チャンネル

検索

House Labo 米田建三の「教えて!未来ゼミ」

検索



Navi 対談

聞き手

公益社団法人 国際経済交流協会

会長 米田 建三

産経新聞社 論説副委員長

榊原 智

新型コロナ禍で露呈した戦後日本政治の弱点 抜本的な改革が急務になっている

北朝鮮による日本人拉致問題で深まった産経新聞との縁

米田 榊原君とは長いね。

榊原 長いですね。

米田 最初の出会いは僕が初当選の時。

榊原 先生が衆院議員に初当選したのは1993年でした。

米田 僕は45歳だった。28年も前だよ。あなたは当時、政治部だった。

榊原 平河（自民党）クラブの若手記者でした。あの衆院選の結果、自民党は結党以来初めて下野したんですね。55年体制が終わりました。

米田 政科研（政策科学研究所、中曽根派、渡辺派）担当ではなかったの。

榊原 宏池会（宮澤派。現岸田派）担当でしたが若手の元氣な議員さんを広く取材していたんです。高輪宿舎に夜回りをかけて、先生のお宅によく邪魔しました。

米田 伝統ある中曽根派の空気が漂ってた頃だった。

榊原 本当にそうです。

98年に2度目の平河クラブ詰めで政科研担当になりました。政科研から分裂して近未来研究会（山崎派。現石原派）ができたり、政科研と亀井グループが合流して志

帥会（村上・亀井派。現二階派）が結成されたのを目の当たりにしました。先生は志帥会でしたね。

米田 僕は産経新聞とは縁があった。1つの理由は、北朝鮮による日本人拉致問題だった。

榊原 重要な役割を果たされたので紙面に多く登場されました。

97年に超党派の議員による「北朝鮮拉致疑惑日本人救済議員連盟」（旧拉致議連）ができましたが、まもなく機能停止に陥ってしまった。横田めぐみさんたちを救うには政府、家族会、世論に加え、国会議員の働きが欠かせないのに、旧拉致議連のトップが日朝友好議員連盟の会長に就くなど混乱させたんですね。

米田 97年の11月に、旧拉致議連のトップが北朝鮮を訪問し、帰国したらすっかり向こうの味方みたいなことを言い出した。びっくりですよ。

拉致事件では警察も外務省も最初はのらりくらりとしていました。われわれ若手議員はガンガン声を挙げた。英文のパンフレットを作って各国大使館行脚もしました。外務省がやらないからわれわれがやった。

榊原 議連トップの豹変に先生はお怒りでしたよね。

米田 どうにかしたいんだけど、議連は解散したり、体制を刷新するのが意外に難しい。

そこで僕は、伊藤博文といっしょに立憲政友会を結党した明治政界の重鎮、星亨の故事を思い出したんです。だめな組織は抜けて新しい議連を作ろうと思いついた。それで働きかけを始めた。

榊原 今の拉致議連（北朝鮮に拉致された日本人を早期に救出するために行動する議員連盟）ができるきっかけですね。トップを誰にするかが大変でした。

米田 「お前がやれ」と勧める仲間もいたんですが、「俺は騒ぎを起こす人間だと党の幹部からにらまれている。別の人にしよう」と言っただけです。

今をときめく女性政治家が当時、衆院議員だったので電話して要請しました。でも、はっきりしない理由で固辞されました。拉致問題は当時、国民誰もが認めるような問題ではなかった。「米田や安倍晋三のような右派の妄想だ」という不見識な人がいた頃です。

榊原 全国紙で熱心に報じていたのは弊紙（産経新聞）くらいでした。

米田 女性議員2人に頼んでダメでした。そこで、安全保障問題の論客になっていた石破茂さんに声

をかけて新議連の会長になってもらった。2002年4月です。私は副会長になりました。幹事長が西村真吾さん、事務局長が平沢勝栄さん、事務局次長が松原仁さんでね。あれから20年近く経ちましたが、帰国がかなわない日本人が大勢います。自戒を込めて言いますが政治家の責任は大きい。申し訳ない思いでいっぱいです。もっと頑張らなくては。

外国人参政権付与を断念させた功労者への党長老からの手紙

榊原 先生は、安全保障、外国人参政権の付与、夫婦別姓問題などにも取り組まれました。日本の主権と国民の権利を守ろうと奔走されました。

北朝鮮の核・ミサイル問題が深刻になって以降はみんな口をつぐんでいますが、当時は、与党にも野党にも外国人に参政権を付与しろという意見が相当ありました。公明党に頼まれて自民党執行部が乗りそうになった。それを先生たちが阻止してくれました。

米田 あれは大変だった。自民党の首脳部がもう。

榊原 野中広務さんらがやろうとしていましたからね。

米田 地方参政権といえども、外

自民党若手保守系議員のリーダーとして

榊原 印象に残っているのは、いろんな問題について、先生が分かりやすくポイントをまとめて同僚議員に伝え、彼らと一緒に党や国会で論陣を張ったことです。

米田 安倍さんともよく連絡をとり合って動きました。

榊原 「次は何を言えればいい？」と同僚議員が尋ねてきていましたね。

米田 シナリオライター役を一生懸命やってたわけだな。若手の仲間にも声をかけて、この部会でこう発言してくれとか、ペーパーも全員に事前に配ったり。2桁の若手議員と一緒に動いてくれた。

榊原 当選回数とはもう全然違うような影響力がありました。

米田 働き甲斐があったね。

榊原 自民党の最近の若手議員は、先生の時代と比べて元気がありません。「日本の尊厳と国益を護る会」などは頑張っています。が、全体的にみて若手はもっと活躍してもいい。

米田 あの頃の僕らは中選挙区制で勝ち上がった議員でした。小選挙区制になると首相官邸や党執行部の力が増してしまう。この問題はあるでしょう。二世、三世



国人はみんな祖国の統制下にある。それを証明して話したんだ。韓国の憲法やら朝鮮総連の規約など全部集めてね。僕はめちゃくちゃ勉強しました。過去の新聞も全部調べて。在日韓国人の青年に（徴兵制をとる）韓国軍の召集令状がきた話とかね。

榊原 そういった事実を党の部会などで突きつければ、執行部は強行しにくくなるわけですね。

米田 自民党の永住外国人地方参政権問題を考える会の会長には、奈良の奥野誠亮先生になってもらっただけです。1913年生まれの奥野先生は内務省に入ってから戦後、自治事務次官を経て政界入りした大長老で、総理経験者も頭が

議員が家業として政治を続けたいという面もあるかもしれない。それでは迫力が生まれません。

活字文化、新聞の衰退を懸念して学生に語ったこと

米田 ちょっと視点変えますか。あなたは活字文化の中心的な新聞社で働いているけれども、活字媒体の衰退は著しいようだね。

榊原 そうですね。

米田 先日、ある名だたる週刊誌の発売部数を知って驚いた。僕自身も週刊誌の記者出身なんだけども、自分がいた世界から言うんじゃなくて、活字文化の衰退とは知性の荒廃そのものだと思うんだ。

上がらない方でした。

党執行部は、奥野先生の後輩なんだけど、元自治事務次官で参院議員だった鎌田要人先生に頼んで外国人地方参政権付与をまとめようとしたんです。

僕は、党の調査会で「最後に一言発言させてほしい」と頼んで持論をぶちました。すると鎌田先生が「極めて論理的だ。私は米田君の今の意見に感銘を受けました。本日から反対いたします」と言われたんです。執行部はびっくりです。それもあるって外国人参政権の話は流れました。

榊原 前代未聞ですね。

米田 鎌田先生は2001年の政界引退直後に手紙をくれました。

スマホは利用する方だけでも、本はいつも同時並行で2、3冊必ず読んでいます。これは僕らの世代の習慣でもあるけれども、すごく大事だと思う。スマホばかりを多用すると言葉や字を忘れてしまう。物事にじっくり関わることが面倒になってくるように思う。こちらは怒っていないのに向こうは僕が怒っていると勘違いしたり。コミュニケーションが不十分になるように思う。

じつくりと、物事を深く考えることも減っていくかもしれない。

榊原 二極化してくるんじゃないですかね。

米田 そんなだね。僕は国会議員の後、6年くらい大学教授を



やりました。『ビートたけしのテレビタックル』とかテレビに出演して多少顔も売っていたから人気教授の1人で、例えば「近代日本の国際関係」という講座には、200人くらい学生が受講してくれていた。3講座持っていたが、新聞を読んでいる学生はほとんどいなかったよ。

僕がまず学生諸君に言ったのは「新聞というのは人類の大変な文化的資産なんだ」ということ。

「一生懸命勉強して、社会を認識するアンテナを磨き、筆も鍛える。そういう人たちが編集局で新聞記事を書く。記事をチェックする者もいる。最後にこれを大きく

報じようという人もいる。1面は総合面で最もその新聞が伝えたい大きなニュースや話載る。政治面、経済面、スポーツ面、社会面がある。一日一回ざっと見出しを追うだけで世界全体が見える。新聞は世界を体系的に表現してるんだ。そのうち目が肥えてくると、この新聞の言ってることには賛成だけど、この新聞の言っていることには疑問があるとか、批判する力も備わってくる」

「一方、SNSっていうのはつまみ食いなんだ。自分の趣味、関心事が分析されて、そういった話ばかりが供給される。イヌが好きな人には、スマホの電源を入れたらイヌの動画がわーっと出てくる。自分に知性がないと好きなものだけ与えられて、そこにどっぷり溺れて、他のことを知らない人間になるんだ」

こういった話をしたら、1割くらいの学生は「本を読むようになりました」と言ってくれた。でも新聞をどれくらい読んでいるかな。新聞は今、大変でしょう。

榊原 それはもう大変です。今おっしゃったように、新聞には一覧性がある。頁をざっとめくればいろいろな話題が載っているのが分かります。関心のない分野の事

柄まで目に飛び込んできて、知見や関心が思いもよらないほうへ広がることもあるんです。

米田 関心ないと思ってたのに関心を持つんだよね。

榊原 ただし、ネットもいいところはあるんです。たとえば産経新聞は部数が全国紙で5番目です。ところがネットでニュースを配信するようになってから、うちの影響力は部数以上に大きくなった。民主党政権の頃、民主党クラブのキャップをしていました。産経新聞はニュースをなるべく早く、多くネットにアップしていました。民主党や民主党政権をめぐる出来事を最初にバーンと出すのがうちだったんです。すると民主党の幹部が「産経さんが一番最初にネットに出すので、それをみた他社が産経のトーンに引つ張られて困る」とぼやくんですね。是々非々で報じていたつもりでしたが、なにせ民主党政権はお粗末だったので厳しい視点からの報道が多かったわけですよ。

それから、歴史や安全保障、外交問題をめぐって、日本の周辺国の言い分はめちゃくちゃですよ。日本の左翼や日本的リベラル派も偏ったことばかり言う。そうじゃないですよという話を産経や保守系の総合雑誌は訴え続けてき

ましたが、ネットが広がる前はたくさんの人に伝えきれなかった。ところが、ネットの時代になって、反目的な周辺国や反目的日本人が言っていることは、これこういう理由で違うんだ、史実に反したおかしい議論をしている、といった話が多くの人目に触れるようになったんです。産経新聞や総合雑誌の記事のネットアップにとどまらず、有識者や市井の人々からも説得力のある主張、問題提起がなされるようになった。今では動画もそれに加わりますが、それらを若い人がみて、ずいぶん毒消しになっています。

米田 なるほど。

榊原 だから今、書店に行くと保守系の本が平積みになってて、いわゆる岩波書店とか左翼の本なんかは目立ちません。ネットによって日本の正常化が進んでいる面はあると思うんです。

米田 活字だけだったら、紙媒体だけだったら、化石みたいな左翼的権威が幅を利かせていたということだね。

榊原 それでも毎年200万部以上、日本の新聞発行部数が減っています。新聞を購読する人は本当の少数派になってしまうかもしれません。



米田 江戸時代へ戻ってしまおうという話だよ。本、活字を読むのは限られた知識層という。庶民は寺子屋で足し算、掛け算、引き算と、字が若干書ければいい。そういう社会になっていいのか。

榊原 もう1つは、ジャーナリストの養成の問題です。確かに専門家がネットで書いたり、動画で話したりするほうが分かりやすく、本質を衝いていることが多々あります。それでも、さまざまな出来事があるから世の中で、ジャーナリズムが「これがニュースだ」と報じたり、取材で問題を発掘して伝えたりすることは大切だと思うんです。民主主義にも

ジャーナリズムは欠かせません。ジャーナリストを育成している最大の組織は新聞社です。これ以上弱体化したり、消えていったら日本社会が困ると思いますが、解決策は見つかっていません。

米田 新聞社は大事だし、教育の場でも読書を重要視しなくては行けない。米国は日本よりもネットが発達しているが、大学生はものすごく本や論文を読まされるでしょう。

榊原 それが紙の本なのか、デジタル化された本なのかはあるにしても、そうですね。

新型コロナウイルス禍が露呈した戦後日本の大欠陥とは

米田 榊原君の言うようにネットにはいいところもあるが、新型コロナウイルスワクチンを接種すると不妊になるとか、ネットで有害なデマが拡散していますね。

新型コロナウイルスの問題は現在進行形だけれども、日本の政治や社会の脆弱性が明らかになった。昨年の始め頃に自民党の厚生労働族の若手議員と話していたら、「いやいや先生、これは風邪に毛の生えたようなものですから」と言うんだ。厚生労働省の説明でそう思い込んでいたんだ。

親しい医師出身の議員に聞いたら「とんでもない。これは得体の知れないウイルスだ」と怒っていましたよ。日本の初動の遅れは根拠なき楽観があっただけです。

榊原 平和ボケですね。社説で最初に新型コロナウイルスに警鐘を鳴らしたのは産経新聞なので自負があるのですが、厚生省から当初聞こえてきたのは「風邪に毛が生えたようなもので大したことない」と。

米田 あのと僕が安倍首相に長文のメールを2通打って「全力で取り組め」と勧めたんです。

榊原 日本は初動の遅れに加えて、問題が深刻だと思ってからでも対応がまずかったです。

米田 永田町も霞が関も油断していた。重大な失態だよ。

榊原 厚生省、首相官邸、与党、野党とも合格点をつけられるところはないですね。

感染症の戦いの最前線は保健所ですが、「手不足だ。保健所の機能が逼迫している」と今も言っているわけですよ。日本で最初の患者が見つかったから1年7カ月以上経っているのに、こんなバカな話をしている。

米田 親しくしているヨーロッパのある国の大使から電話が来て「日本はどうなっているんですか

先生」と言う。「うちの大使館員が高熱を発して、かかりつけの日本のドクターは『これはコロナの可能性が高い。PCR検査をすぐ受ける』と言ってくれた。保健所に申し込んだら、医師でない職員からいろいろ聞き取りされた上で『検査できない』と言う。なんでですか」と烈火のごとく怒っている。日本の行政は外国との対応もできないし、基本的な検査さえ滞らせていた。

榊原 東京の墨田区なんかは頑張っただけ充したんですが、保健所の急速増員をすべきなのに十分にできていないところは今も極めて少ないままです。政治も行政もどうかしています。

米田 僕は愛知県の藤田医科大学の客員教授です。ここは当初から熱心に取り組んでいたけれども、名だたる旧帝大系医学部附属病院の多くは、少なくとも最初の段階ではほとんど動かなかったと聞いています。医療体制が機能しないなら緊急立法をして動かすようにすべきなのに、政府も与党も野党もしない。これはどういうことか。

榊原 平時の体制をやりくりして何とか乗り切ろうとして、国民の被害が増しています。コロナ対応に当たっている医療従事者や救急

隊員らには本当に感謝しかありませんが、彼らの努力で追いつかない事態を放置している現状に国民が憤るのは無理ありません。

た。伝染病を防ぐためなんだから拘束してでも止めればいいのに、翌日国会で安倍首相は憲法上、強制できないと答弁したんです。安倍さんでもそんなことを言うのかとびつくりしました。未知の感染症を日本で蔓延させないため房総のホテルに泊まってもらうのに、わがままな人間を放置する戦後日本

メなんです。何がいま一番大事なのか。コロナを広げない、国民を守る、国家社会を守る、それを最優先事項に置けば、自ずととるべき方策が固まります。

ていくか。「有事」に備え、対応できる政権が継続しなければ。今さら平和安全法制の廃止にこだわっている立憲民主党や共産党が政権にかかわるようになったら日本は大変なことになる。

僕の手製製薬会社の社長になった男がいるんだが、コロナ禍の前に対談したことがある。「永田町も霞が関もぼけている」と怒っていた。

本はそうじゃない」ってね。ワクチンの開発、調達は昔の医療過誤事件に懲りて、責任をとりたくないから慎重姿勢だ。政治家も官僚も自己保身が過ぎる。

米田 僕は前から言っていたね。政治家は必要性の論理によって国民の期待に応える義務がある。これこそ戦後日本政治が身につけるべき要諦だ。

が、東京五輪は開催してよかった。断念していたら日本も世界も沈滞ムードの極みでしたよ。五輪で日本の若者が素晴らしい成績をあげました。日本の若い世代には力がある。それを引き出す政治が望ましいですね。

米田 僕が現役でいたら若手を結集して緊急立法の大運動をしていましたよ。医師会の顔色を窺うばかりではだめだよ。

米田 官僚がどんな答弁書を渡したのかね。実はこのときも安倍首相に長文のメールを打って「憲法解釈が間違っている、憲法第12、13条を読むべし」と伝えました。

米田 菅さんは横浜市会議員だった頃から友人だが、沈黙考で軽率を排し、状況を見ながら物事を進める。ぶれない。政党政治に必要な根回しの能力を培ってきたけれど、自分が主役になって記者会見でも苦労していた。

米田 菅さんは横浜市会議員だった頃から友人だが、沈黙考で軽率を排し、状況を見ながら物事を進める。ぶれない。政党政治に必要な根回しの能力を培ってきたけれど、自分が主役になって記者会見でも苦労していた。

米田 本末転倒です。現代日本の事なかれ主義は誠にひどい。

米田 先生がいつも言われていることです「必要性の論理」に立つて物事を進めようとしなからダメ

米田 菅さんは横浜市会議員だった頃から友人だが、沈黙考で軽率を排し、状況を見ながら物事を進める。ぶれない。政党政治に必要な根回しの能力を培ってきたけれど、自分が主役になって記者会見でも苦労していた。

米田 菅さんは横浜市会議員だった頃から友人だが、沈黙考で軽率を排し、状況を見ながら物事を進める。ぶれない。政党政治に必要な根回しの能力を培ってきたけれど、自分が主役になって記者会見でも苦労していた。

米田 偉い人というのは責任を取るためにいるんですけどね。自分や組織をかばうだけでは国民はたまらない。

米田 菅さんは横浜市会議員だった頃から友人だが、沈黙考で軽率を排し、状況を見ながら物事を進める。ぶれない。政党政治に必要な根回しの能力を培ってきたけれど、自分が主役になって記者会見でも苦労していた。

米田 菅さんは横浜市会議員だった頃から友人だが、沈黙考で軽率を排し、状況を見ながら物事を進める。ぶれない。政党政治に必要な根回しの能力を培ってきたけれど、自分が主役になって記者会見でも苦労していた。

米田 菅さんは横浜市会議員だった頃から友人だが、沈黙考で軽率を排し、状況を見ながら物事を進める。ぶれない。政党政治に必要な根回しの能力を培ってきたけれど、自分が主役になって記者会見でも苦労していた。

米田 菅さんは横浜市会議員だった頃から友人だが、沈黙考で軽率を排し、状況を見ながら物事を進める。ぶれない。政党政治に必要な根回しの能力を培ってきたけれど、自分が主役になって記者会見でも苦労していた。

米田 菅さんは横浜市会議員だった頃から友人だが、沈黙考で軽率を排し、状況を見ながら物事を進める。ぶれない。政党政治に必要な根回しの能力を培ってきたけれど、自分が主役になって記者会見でも苦労していた。

米田 菅さんは横浜市会議員だった頃から友人だが、沈黙考で軽率を排し、状況を見ながら物事を進める。ぶれない。政党政治に必要な根回しの能力を培ってきたけれど、自分が主役になって記者会見でも苦労していた。

米田 菅さんは横浜市会議員だった頃から友人だが、沈黙考で軽率を排し、状況を見ながら物事を進める。ぶれない。政党政治に必要な根回しの能力を培ってきたけれど、自分が主役になって記者会見でも苦労していた。

米田 菅さんは横浜市会議員だった頃から友人だが、沈黙考で軽率を排し、状況を見ながら物事を進める。ぶれない。政党政治に必要な根回しの能力を培ってきたけれど、自分が主役になって記者会見でも苦労していた。

米田 菅さんは横浜市会議員だった頃から友人だが、沈黙考で軽率を排し、状況を見ながら物事を進める。ぶれない。政党政治に必要な根回しの能力を培ってきたけれど、自分が主役になって記者会見でも苦労していた。

米田 菅さんは横浜市会議員だった頃から友人だが、沈黙考で軽率を排し、状況を見ながら物事を進める。ぶれない。政党政治に必要な根回しの能力を培ってきたけれど、自分が主役になって記者会見でも苦労していた。

米田 菅さんは横浜市会議員だった頃から友人だが、沈黙考で軽率を排し、状況を見ながら物事を進める。ぶれない。政党政治に必要な根回しの能力を培ってきたけれど、自分が主役になって記者会見でも苦労していた。

米田 菅さんは横浜市会議員だった頃から友人だが、沈黙考で軽率を排し、状況を見ながら物事を進める。ぶれない。政党政治に必要な根回しの能力を培ってきたけれど、自分が主役になって記者会見でも苦労していた。

米田 菅さんは横浜市会議員だった頃から友人だが、沈黙考で軽率を排し、状況を見ながら物事を進める。ぶれない。政党政治に必要な根回しの能力を培ってきたけれど、自分が主役になって記者会見でも苦労していた。

米田 菅さんは横浜市会議員だった頃から友人だが、沈黙考で軽率を排し、状況を見ながら物事を進める。ぶれない。政党政治に必要な根回しの能力を培ってきたけれど、自分が主役になって記者会見でも苦労していた。

米田 菅さんは横浜市会議員だった頃から友人だが、沈黙考で軽率を排し、状況を見ながら物事を進める。ぶれない。政党政治に必要な根回しの能力を培ってきたけれど、自分が主役になって記者会見でも苦労していた。

米田 菅さんは横浜市会議員だった頃から友人だが、沈黙考で軽率を排し、状況を見ながら物事を進める。ぶれない。政党政治に必要な根回しの能力を培ってきたけれど、自分が主役になって記者会見でも苦労していた。

米田 菅さんは横浜市会議員だった頃から友人だが、沈黙考で軽率を排し、状況を見ながら物事を進める。ぶれない。政党政治に必要な根回しの能力を培ってきたけれど、自分が主役になって記者会見でも苦労していた。

米田 菅さんは横浜市会議員だった頃から友人だが、沈黙考で軽率を排し、状況を見ながら物事を進める。ぶれない。政党政治に必要な根回しの能力を培ってきたけれど、自分が主役になって記者会見でも苦労していた。

米田 菅さんは横浜市会議員だった頃から友人だが、沈黙考で軽率を排し、状況を見ながら物事を進める。ぶれない。政党政治に必要な根回しの能力を培ってきたけれど、自分が主役になって記者会見でも苦労していた。

米田 菅さんは横浜市会議員だった頃から友人だが、沈黙考で軽率を排し、状況を見ながら物事を進める。ぶれない。政党政治に必要な根回しの能力を培ってきたけれど、自分が主役になって記者会見でも苦労していた。

米田 菅さんは横浜市会議員だった頃から友人だが、沈黙考で軽率を排し、状況を見ながら物事を進める。ぶれない。政党政治に必要な根回しの能力を培ってきたけれど、自分が主役になって記者会見でも苦労していた。

米田 菅さんは横浜市会議員だった頃から友人だが、沈黙考で軽率を排し、状況を見ながら物事を進める。ぶれない。政党政治に必要な根回しの能力を培ってきたけれど、自分が主役になって記者会見でも苦労していた。

米田 菅さんは横浜市会議員だった頃から友人だが、沈黙考で軽率を排し、状況を見ながら物事を進める。ぶれない。政党政治に必要な根回しの能力を培ってきたけれど、自分が主役になって記者会見でも苦労していた。

米田 菅さんは横浜市会議員だった頃から友人だが、沈黙考で軽率を排し、状況を見ながら物事を進める。ぶれない。政党政治に必要な根回しの能力を培ってきたけれど、自分が主役になって記者会見でも苦労していた。

米田 菅さんは横浜市会議員だった頃から友人だが、沈黙考で軽率を排し、状況を見ながら物事を進める。ぶれない。政党政治に必要な根回しの能力を培ってきたけれど、自分が主役になって記者会見でも苦労していた。

米田 菅さんは横浜市会議員だった頃から友人だが、沈黙考で軽率を排し、状況を見ながら物事を進める。ぶれない。政党政治に必要な根回しの能力を培ってきたけれど、自分が主役になって記者会見でも苦労していた。

米田 菅さんは横浜市会議員だった頃から友人だが、沈黙考で軽率を排し、状況を見ながら物事を進める。ぶれない。政党政治に必要な根回しの能力を培ってきたけれど、自分が主役になって記者会見でも苦労していた。

特別寄稿

自民党の裏舞台を知り尽くす元官僚の激白

自民党の七不思議

初心を忘れた政党は、どこに行くのか

議員立法支援センター代表

宮崎 貞行

1955年に結成された自民党は、日本国憲法と戦後民主主義を「日本の弱体化の一因」と指摘し、「正しい民主主義と自由こそが必要であり、わが党は憲法改正で国民の負託に応える」とその使命を明確にした（55年の「党の使命」宣言）。祖国愛と自主防衛、家族の絆の重視なども綱領に謳われており、一日も早く米国の属国という立場から脱却しようとの意気込みが感じられる。

いる重大な矛盾を七不思議としてまとめた。

1 連立の相手に基盤を侵食されても喜んでる不思議

2021年5月の政党支持率調査（日本テレビ）によれば、自民党の支持率は37%、公明党の支持率は2%である。

調査（日本テレビ）によれば、自民党の支持率は37%、公明党の支持率は2%である。

ところが、半世紀以上経たず、使命達成への情熱は薄れ、ただ自らの利権確保と延命のみを志向しているように思われる。野党が弱体なので、なんとか命脈を保っているものの、国民政党としての勢いはそがれ、安楽死が近づいているように見える。

ところが、憲法改正や土地規制などで、自民が公明に必要以上の譲歩をしているのは、どうしてであらうか。

親中の姿勢を明確にした公明党は、自民党の憲法改正に同意するわけがなく、外国人の土地保有規制にも極めて消極的である。中共のウイグル弾圧や法輪功迫害の非難決議にも応じようとしない。中国における法華経の普及活動が認められないにもかかわらず、中共

親中の姿勢を明確にした公明党は、自民党の憲法改正に同意するわけがなく、外国人の土地保有規制にも極めて消極的である。中共のウイグル弾圧や法輪功迫害の非難決議にも応じようとしない。中国における法華経の普及活動が認められないにもかかわらず、中共

を支持する理由が不明であり、こういう宗教政党と連立を組むことに違和感を持っている国民は多い。

を支持する理由が不明であり、こういう宗教政党と連立を組むことに違和感を持っている国民は多い。

それだけでなく、選挙のたびに、学会票をあてにする自民党の姿も見苦しい。また、国土交通大臣のポストを与えたために、地方の建設・土木業者の中には、仕事目当てで創価学会に入る者もいると言われている。これまで自民の選挙活動を支えてきた建設・土木業界をみすみす手放しているのではないだろうか。

そこで一つの方策であるが、公明党以外にも、連立のウイングを広げれば、公明党の発言権を縮小することができのではないかと思われる。今度の総選挙では、消費税の廃止と大胆な財政出動を訴えない限り、自民は議席を相当減らすと予想されるが、その場合に

は維新や国民民主党を加えて救国連立内閣を組閣する可能性が出てくるだろう。決断の遅い自民党の改革機運は、そのとき湧き上がってくるのではないだろうか。

は維新や国民民主党を加えて救国連立内閣を組閣する可能性が出てくるだろう。決断の遅い自民党の改革機運は、そのとき湧き上がってくるのではないだろうか。

2 民主採決を堂々と行わない優柔不断の不思議

自民党は、衆参両院の過半数を握っているのだから、法案の採決に当たっては、堂々と多数決に持ち込めばよいのに、どうして採決に持ち込まないのだろうか。

「強行採決」という左翼新聞の非難を恐れているなら、国民多数の負託を受けた公党としてふがいない。「強行採決ではなく、民主的手続きにのっとった民主採決である」と堂々と主張すべきではないだろうか。

また、党内の部会、政調会、総

また、党内の部会、政調会、総

Vol.36 対談者 PROFILE



産経新聞社論説委員長
サカキハラサトシ
1965年愛知県生まれ
90年東京大学文学部国史学科卒業後、産経新聞社入社
防衛庁、民主党、自民党の各クラブキャップを経て、
2012年産経新聞「国民の憲法」起草委員事務局、
13年防衛大学校総合安全保障研究科（修士課程）卒業、
同年論説委員兼政治部編集委員、17年論説副委員長（現職）、防衛省防衛人事審議会委員（同）。



公益社団法人国際経済交流協会
会長
米田 建三
1947年長野県生まれ
ヨネダケンソウ
県立松本深志高校卒業、横浜
市立大学商学部経済学科卒業後、出版社勤務。横浜市
会議員を経て、93年に衆議院議員に当選。小泉内閣では
内閣府副大臣を務めた。帝京平成大学教授を歴任後、
現在は公益社団法人国際経済交流協会 会長、藤田医科大学
客員教授、一般社団法人消毒抗菌高度技能認定
協会 会長を務める。

務会も、全員一致を旨としているので、新規の議員立法や国会決議が進まないことに国民はいら立ちを覚えている。採決に持ち込むと、党内の意見対立が明らかになるといふ理由で、採決を控える慣例になっているようだが、全員一致を待つなら政策は前を向いて進むはずがない。

政策決定を早めるには、自民党の規則において、多数決により議案を決定すること、そして国会の委員会の採決の場ではじめて党議拘束をかけることを明記すべきであろう。委員会採決までは、自由に意見を述べさせるのがよい（これは英国議会のやりかた）。

そして、両院の議院運営規則においても、全党の合意ではなく、民主的多数決により、議員立法や国会決議を推進することを明記することが望まれる。政党と国会の意思決定システムは、雇用の減少や尖閣侵略、ウイグル弾圧など目の前の危機に対応できず、時代遅れも甚だしいものがある。政党と国会が国民から愛想をつかされる要因はここにあるといえよう。

3 結党の精神である「自主独立自尊」の初心を忘れた不思議

一国の真の独立自尊があつてこ

に間に合わない以上、次善の策を用意しておかねばなるまい。

それができないなら、「憲法の変遷」理論を応用して、危機対応の新規立法を促進すべきである。これには前例がある。私学教育の助成は、憲法89条に違反するものだが、私学教育振興助成法により、憲法の規範的意味が修正されたという理論である。

これを応用すると、自衛隊法や緊急事態法などを制定することにより、憲法9条の規範的意味が変更されたと解釈することができるだろう。改正の困難な硬性憲法にあつては、「変遷」理論を活用する余地が大きい。

さらに言えば、現行の憲法は、個人中心の「自由主義と民主制」という米国神話に立脚しており、わが国の伝統的価値観にそぐわないという重大な問題がある。

わが国は、個人よりも共同体の発展を重視する「調和と礼節」の精神（自助、共助、公助、敬神崇祖）に立ち返ることが求められているが、自民党はその場しのぎの弥縫策にとどまっている。伝統精神に立ち返った自主憲法を目指すなら、現行の米国神話に基づく占領軍憲法はいったん廃止する必要があろう。

そ、はじめて自由も民主主義も成立するのであるが、自民党はその結党の精神をすっかり忘れていているのである。

いまだに米軍が横田などに駐留し、首都圏上空などで民間航空の航空管制を握っている状態は、まだ真に「独立」した国とは言えない。自衛隊の武器や装備をみても、米軍の衛星情報と通信指揮システムの下で機能するように設計されている。小麦や大豆、飼料も米国の戦略に乗せられて、米国に依存したままで、食糧の自給率は年々低下している。

こうしてみると、米国の属国として、与えられた範囲で、限定的な自由を謳歌しているに過ぎないといえよう。日米地位協定も、裁判管轄権など日本側が不利な立場に置かれているのにこれを抜本的に見直そうとしていない。地位協定に基づく日米合同委員会の結論も、官僚任せにせず、国会の承認を必要とするように改訂してはいかがだろうか。

三沢基地などで政府の秘密情報や高官の会話などが盗聴されているという証言もあった（※スノーデン証言）。米軍の通信傍受施設については共同運用を申し入れるべきではないか。自民党はすっか

5 経理局はあるが、立法局がない不思議

自民党に資金の管理を行う経理局はあるが、立法の起案、推進を図る立法局がないのは、これいかに。

政党の任務は、言うまでもなく、議員立法や国会決議により政策を実現することであるが、多忙な議員を補佐する組織が自民党に欠けている。衆参の法制局は、指示されなければ動かないので、法案を起草して法制局と渡り合える人材を自民党組織の中に養成する必要がある（多忙な議員には期待できない）。

とりあえず、内閣法制局に勤務したことがある官僚OBを集め、立法局に配置すること。そうすれば、やがて自前の人材が育つであろう。立法事務費は、自民に30億円、野党にも十数億円与えられているので、これを存分に活用すべきではないか。また、立法事務費の使途を明らかにするよう立法事務費交付法を改正すべきである。

6 新人議員の訓練、研修が行われない不思議

当選した新人には、結党の精神と綱領を教え、党の歴史、戦後政治史、国家戦略論、政府機構、政治過程、

り健忘症になり、まだ実質的に占領軍統治が続いていることを忘れていないのではないだろうか。

※2013年6月、エドワード・スノーデンは英紙ガーディアンに、米国では自国を含む全世界のインターネット・電話回線の傍受を行っていたことを暴露した。

これを打破するには、財務省の主計局を内閣に移管し（内閣主計局とする）、内閣が責任をもつてプライマリーバランスの閣議決定を破棄し、デフレ脱却のための積極財政に打って出る必要がある。そして、自主独立に必要な防衛力の増強に打って出ることである。（衛星を用いた電磁波攻撃により、相手のミサイルの方向変換、艦艇通信網の破壊など）

4 かげりの見える米国神話を盛り込んだ占領軍憲法を護持する不思議

現行憲法は、占領時における基本法として制定されたものであつて、占領が終わった昭和27年に当然廃棄されるべき性格のものであつた。吉田内閣がこの時廃止を宣言しなかったのは、「最大の失政」と吉田の顧問であつた白洲次郎も批判している。

これを改正しようと自民党は努力してきたが、両院の三分の二の

貨幣金融論などの基礎教育を行う必要があるが、自民党にはそれに当たる専門組織が弱体である。

官僚に馬鹿にされないよう、政治資金規正法の仕組み、税と予算の仕組み、弁論術、交渉術、英会話なども叩き込む研修機関（教育局）を党内に設けなければならない。地方議員対象の教育組織も欠かせない。また、世襲議員は、別の選挙区から出馬させるなど、新陳代謝を図る必要がある。派閥の枠を超えて、優秀な議員や民間人を登用し、大臣、副大臣に抜擢することも党規則で規定してはどうか。現状の年功序列の登用と議員資質のままでは、国民から愛想をつかされるであろう。

7 若い保守世代の組織化を図らない不思議

公明党は、若い世代を教育する創価大学を持っており、共産党も大学の中で共産思想を研究する学生サークルを支援しているのので、後継者の再生産が可能となっている。ところが、自民党には、保守の理念、伝統的な価値観を若い世代に伝える教育機関がないので、せっかく保守世代が育ってきいているながら、それが継承されない恨みがある。（最近の夫婦別姓、

議決と国民投票という世界一厳しい改正要件を乗り越えられないでいる。（いうまでもなく、これは容易に改正できないように、占領軍が米国憲法の改正要件以上の厳しい制限を加えたためである）

したがって、わが国としては、憲法の改正が今ここにある危機（尖閣や台湾の侵略）に間に合わない以上、次善の策として現占領憲法の廃止を宣言すべき時期が近づいているのではないか。

英国は憲法を持たず法律だけで国家を運営しているが、わが国や英国のように長い歴史に基づく英知を持っている国に成文憲法は必要ないと思う。良識（コモンセンス）による法律だけで立派に国を運営していくことができるはずである。

したがって、例えば台湾が侵略されたなら、わが国のシーレーンの生命線は中共に抑えられ、わが国はチベットやウイグルのように文化と伝統が抹殺されることになるから、「諸国民の公正と信義」（前文）に依拠できないことが明らかになった以上、内閣が直ちに憲法の無効を宣言してもよいのではないか。あるいは、議会が三分の二以上で無効確認決議を行い、内閣に無効宣言を促すことも検討してはどうか。改正が日本存立の危機

LGBTに賛同する自民議員が現れたのは、故なしとしない。）

中選挙区制にあつては、派閥が多少とも研修と人材発掘の役を担ってきたが、小選挙区制の下では、党が主体となつて、保守学生連盟や青年保守同盟などを組織化し、教育に当たり、将来の自民党を担う人材を養成する必要がある。現在の自民党中央政治大学院を正規の大学院大学に衣替えさせることを検討してはどうか。幹事長に託された莫大な政治資金のごく一部を使えば、それは容易に実行できるはずである。



議員立法支援センター代表
宮崎 貞行
ミヤザキ サダユキ

●プロフィール
昭和二十年生まれ、東京大学法学部卒、コーネル経営大学院卒、警察庁警備局、内閣官房調査官等を歴任。元帝京大学教授。現在は、わが国の伝統に潜む価値観を調べている。議員立法支援センター代表として、保守派の立法を推進するほか、伝統文化を発掘して「国体物語」を編んでいる。近著に『小泉大志命・祓い太刀の世界』『天皇の国師』『宇宙の大道』など。

一般社団法人

全国コインランドリー連合会立ち上げ

当協会米田会長が常任顧問に

近年、コインランドリー業界やクリーニング業界を取り巻く環境は、大きく変貌を遂げている。

グラフが示すように、クリーニング施設数は年々減少、その受け皿になるかのようにコインランドリー施設数は増加の一途だ。背景には、生活様式の変化や洗濯機の機能向上などがある。

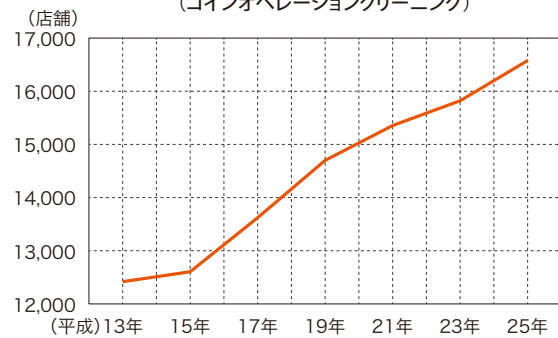
コインランドリーのニーズが高まる一方で、課題も多い。現在、コロナ禍においても店舗の消毒、清掃基準など不明確なままである。

一般社団法人全国コインランドリー連合会（理事長 宮澤敏文）はこの9月設立の運び、当協会米田会長は常任顧問に就任する。

活動としては、出店、衛生、排水などの法整備、税制の要望、補助金制度の確立、衛生管理責任者の教育・資格供与など、コインランドリー事業発展に取り組む。

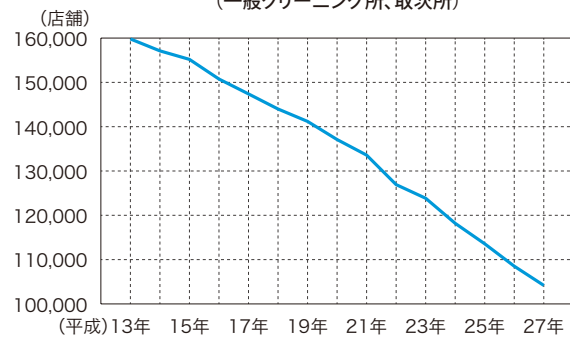
また、ガスエネルギーによる乾燥機から電気式乾燥への切り替えも推進するという。低炭素社会に対応する取り組みにも期待したい。（国際経済交流協会 事務局）

コインランドリー施設数
(コインオペレーションクリーニング)



グラフ：厚生労働省「衛生行政報告例」より作成

クリーニング施設数
(一般クリーニング所、取次所)



グラフ：厚生労働省「衛生行政報告例」より作成

Information

外国人技能実習生情報

当協会は「人的、知的、組織的な交流を通じて国際的な相互理解と経済交流の拡大」——公益目的の一事業として「外国人技能実習生受入事業」を展開しています。

「外国人技能実習制度」に関心をお持ちの企業様は、当協会までお問い合わせください。

TEL 03-6452-9178

FAX 03-6452-9179

当協会職員紹介

ルオン ティ ホアと申します。出身はベトナムの東北部、中国の国境に接しているカオバン市。カオバン市は少数民族が人口の95%を占め、私もタイ族という少数民族です。

外国語が好きで高校まではずっと英語を勉強し、大学では日本語を専攻しました。

日本に来て5年、ずっと技能実習生関係の仕事をしています。日本とベトナムの架け橋となり、両国の経済発展に貢献でききるやりがいのある仕事です。



LUONG THI HOA
2020年2月入社



NGUYEN VAN NON
2021年5月入社

(国際経済交流協会 事務局)

寸鉄

アフガニスタンの
タリバン復活に見る
米国依存安保体制の危険

米田 建三

いやはや、子供にも分かるような分かりやすすぎる顛末だった。アフガニスタンからの米軍撤退の流れが決まると、かつて駆逐されたイスラム原理主義勢力タリバンが瞬く間に全土を制圧。米国が後ろ盾になっていたアフガン政府が崩壊した。暴力と女性蔑視のタリバン政治が早速復活しつつある。

長い戦争に疲れた米国内の撤退を求める世論に応ずるのは、米国政府の国益判断だ。そして、その結果、またも地獄を見る羽目に陥ったのが、自由と民主を夢見てきたアフガン国民である。アフガン国民は、はしごを外されたのである。

もとより、米軍がアフガン駐留を始めたのも、正義のためだけではない。米国の世界戦略にとって意義があるから始めたのであって、つまり米国の国益である。国際政治は、各国の国益を軸に舞台が回る。

アフガンの現状は、日本にとっても他人事ではない。日米同盟は必要不可欠だが、

米国が親切で日本に駐留しているのではなく、米国の世界戦略において有益だから駐留しているのだ。日本にとっては、その代償として核の傘の提供をはじめ、米軍による日本の防衛協力がある。

特に核の傘の提供は、近隣核保有国の日常的脅威にさらされているわが国としては、死命を制する価値がある。核の傘の提供の意義をもっとつきつめると、日本が敵対的な核保有国の攻撃を受けつつある時、または攻撃を受けて焦土と化した後、米国が日本のために必ず相手を核攻撃することなければならぬ。そうでなければ、相手に対する抑止力Ⅱ反撃力にならないからだ。

はたして米国は日本に義理を果たすであろうか？ 今日の核ミサイルの技術からすれば、米国のミサイル発射に対して、反撃のミサイルを米国本土に向け発射することは容易だ。米国がその危険を冒すだろうか？ かくして、核の傘とやらが、無効だ

ということになれば、わが国周辺の敵対的核保有国によるわが国に対する恫喝、強要、無理難題、彼らに思いのままに小突き回されることになるだろう。

米国依存一辺倒の防衛体制には、こうした根本的な危うさがあるのだが、与党にも親敵対国派や米国信仰派がウヨウヨ。まして野党の主流は、安保体制強化に反対する古典的な化石人種ばかりだ。ところが最近、行きつけの小料理屋の板前とこんな問答をした。彼は政治好きで、よく私に質問をする。

板「ふだん、平和平和と喚びている日本が、なんで核兵器禁止条約にサインしないんですか？ 先生、教えてください」

私「米国の核の傘で周辺の核保有国を牽制しているのに、核兵器禁止と言ったら、米国の核の傘も否定することになるからだよ」板「なるほど。そのくせ日本は、上から下まで、核兵器廃絶なんてきれいごとを言ってるんですね。日本人は二枚舌だ。核兵器を持つて国は、それが強みになっているから、手放さないでしょう」

私「ま、実際には、皆で一斉にということなら別だが、自分から先には手放さないね」板「アメリカは、自分が危険になっても、

日本のために戦うんですかね？ 日本のボディーガードじゃあるまいし」私「米国には核先制不使用論がある」板「何ですか？ それ」

私「自分から先に核攻撃はしないということだ。米国はそれで済む。米国の反撃力があるから、自ら米国を核攻撃する勇気のある国はないだろうからね」

板「えっ!? それじゃ、日本みたいなアメリカ頼みの国はマズイじゃないですか。こっちを攻撃しようって国を先にやつつけてくれないんですか？」

私「そういうことになるね」板「日本が滅ばされた後、絶対相手に仕返ししてくれませんか？ もう灰になっちゃった友だちのために自分の命は賭けないね。その価値がないもの」

私「米国が日本のために必ず報復するかどうか、米国の国益判断だろうね。昔、米国の將軍クラスの軍人に、そのことを聞いたことがあるが、しばらく黙ってから『個人的な意見だが、たぶん米国は日本のために報復攻撃するだろう』と言った」

板「アテにならない!! 日本も早く核武装しましょうよ!!」市井の論客は明快である。

米軍のアフガニスタン撤収中に親米ガニ政権は崩壊し、イスラム原理主義勢力タリバンが首都カブールを制圧した。

南ベトナムの首都サイゴンの陥落（1975年）や、国共内戦時の蒋介石政権の台湾への脱出（49年）を想起させる。米国が後押しをやめた結果、政権瓦解や大陸からの逃亡に至った。パリ和平協定（73年1月）で米軍が

撤退（同年3月）した後も南北ベトナムの戦いは続き、75年4月に南ベトナムは滅んだ。北ベトナム軍がサイゴン市内に突入する中で、ヘリコプターで沖合の米空母へ何千人もの人々が脱出した。ヘリ搭乗をめぐってカブール空港のような混乱があった。

中国共産党軍と戦った蒋介石の国民党軍は敗北を続け、その腐敗ぶりもあって米国が48年に内戦不介入を宣言した結果、形勢が決定的に不利となつて大陸の支配を失った。

いくら米国からすぐれた装備や資金を与えられても、政権や軍が腐敗し、国民や軍人の士気（モラル）が低いままでは米国が引く途端に倒れる。

それでも、南ベトナム政府は米軍完全撤退後も、米国などから援助を受けつつ2年間戦った。アフガンのガニ政権の不甲斐なさは際立っている。

米国のバイデン大統領は、ガニ政権の即時倒壊を予期できないという大失

態を演じた。ホワイトハウスも、米情報機関も、米軍も批判されて当たり前だろう。

ただし、バイデン氏が「アフガン国軍が戦う気のない戦争で、米兵が戦死してはならない」と述べたのはもつともだ。

ガニ大統領は敵前逃亡し、残された政府、軍の要人からも国民を守るために戦うリーダーは現れなかった。アフガンの人々が気の毒でならない。

一方で、米国は多大な戦費、相当な兵力を投入してきたアフガン戦争の負担から解放される。

日本は、自衛隊機派遣による邦人およびアフガン人協力者の退避を試みたが十分な成果をあげられなかった。首相官邸や外務省の自衛隊派遣の判断の遅さが響いた。危機への拙劣な対応を猛省してもらいたい。現地に取残された人々の救援を模索しなければならぬ。

もう一つ、日本政府が取り組むべきことがある。それは、バイデン政権に働きかけて、アフガンから手を引いたことで生じる余力を中国抑え込みに投じさせることだ。対中シフトの強化が口先だけに終わる恐れはある。

働きかけに説得力を持たせるためにも、日本自身の防衛費増額や南西防衛強化といった努力は欠かせない。アフガン情勢の急転を材料に、中国

は台湾を揺さぶっている。中国共産党系メディアの環球時報は「台湾当局はアフガンから教訓をくみ取る必要がある」と題した社説で、米国は頼りにならないと決めた。

この揺さぶりは日本にも用いてくるかもしれない。だが、真に受けない方がよい。

それは、バイデン氏がアフガンとは異なるとして、日台韓やNATO諸国を防衛する考えを示したからだけではない。米国の国益上、世界戦略上、在日米軍基地を手放せないという話だけでもない。

歴史的に米国は、先の大戦時の日独両国や冷戦時のソ連など強国相手には強く、徹底的に対抗し、小さな相手には弱く、戦いから手を引きがちである。日本や台湾を脅かす現代中国は米国が背中を見せたいとは思わせないほどに強大である。

台湾は賢明な対応をしている。蔡英文総統はアフガン情勢を受け、台湾の唯一の選択肢は「自主防衛だ」と語った。民主主義台湾がこのような決意を表明し、実践していくほど米国は台湾を守ろうとするだろう。

日本の政治家、官僚もこの機微を解し、行動してほしい。まずは、日台の外交当局間、防衛当局間の安全保障対話や相互往来を始めるときだ。

産経新聞社論説副委員長 榎原 智

榎原 智(さかきばら・さとし) 産経新聞で政治分野(安全保障、憲法等)を担当する論説副委員長。防衛省防衛人事審議会委員。昭和40年生。東大文学部卒。防衛大学校総合安全保障研究科(修士課程)卒。

直言

東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会が閉幕しました。前例のないコロナ禍での開催とあって難しい運営だったことは想像に難くありません。世界への東京や日本の魅力の発信は限定的にならざるを得ませんでした。

そのような中でも、高い評価を受けたものに「日本のホスピタリティ」があります。これは人を思いやる人たちの矜持と、それを守ってきた我々の財産ともいえる文化です。

勘違いしてはいけない点があります。ホスピタリティを発揮する側と受け取る側の立場は対等であることです。その丁寧で思いやりのある態度を受けた側が高圧的になる人がいますが論外でしょう。

「日本ホスピタリティ推進協会」では、ホスピタリティは「両者の間に相互満足があつてこそ成立する」と説明しています。その精神はオリンピックにとどまらず、社会生活や学校、家庭でも大切な視点です。



公益社団法人
国際経済交流協会
代表理事
鈴木 丈真